

幼稚園「デフサッカー体験」実施しました



15日（水）に、幼稚園では「デフサッカー体験」を実施しました。「デフサッカー」は、多くの方がご存じだと思いますが、簡単にご紹介すると、聴覚に障害のある選手が行うサッカーで、補聴器を外してプレーをするのだそうです。

今回は、デフサッカー元日本代表監督でサインフットボールしながわの植松隼人さん、U-23 デフサッカー日本代表の黒河内照也選手、手話通訳者の中田碧さんにおいでいただき、いろいろ体験をさせていただきました。



この秋に、東京でデフリンピック（聴覚に障害がある方々のオリンピック）が開催されます。11月にデフサッカーや陸上競技、バスケットボール、水泳やレスリング、柔道など21の競技に、約3000人の選手が集まり、都内の各会場で行われます。品川区内では、大井陸上競技場で陸上（ハンマー投げ）が実施される予定とのことです。

はじめに、植松さんや黒河内さんの紹介コーナーがありました。その中の話題で、「目覚まし時計の音が聞こえないと思うけど、どうやって起きたい時刻に起きるの？」という質問がありました。黒河内さんは「気合です！」と笑いを誘っていましたが、植松さんは「時計が振動（震える）ようにして、枕の下に入れるんです」とおっしゃっていました。他にも、自転車に乗る時には、周りに特によく注意をしていること、特に聞こえない分、後ろを気にすることが多く、前が不注意にならないようにすることも気を使っているという話もしてくれました。

準備運動代わりに、土曜日の小学校の運動会でもみんなで一緒におどる「しゅわしゅわデフリンピック！」も、一緒に踊りました。子どもたちもよくわかっているダンスですから、先生方と一緒に楽しく踊りました。また、鬼ごっこやボールを使った簡単なゲームも楽しみました。最後に黒河内先生に、上手にお話を聞く（心で聞く）コツを教えてくださいました。先生は「相手に対して優しい心で話を聞こうとすることだと思います」と教えてくださいました。

次は、12月ごろに、5年生もデフサッカー体験をする予定です。